

中国科学院土壤科学研究所との研究協定覚え書き(MOU)の締結

生物環境安全部長 岡 三徳

農業環境技術研究所から陽理事長他3名が、2002年7月3日と4日に揚子江河岸の古都、南京市にある中国科学院土壤科学研究所を訪問して、両国に共通する農業環境問題に関する国際研究協力を推進するため、共同研究の協定覚え書き(MOU)を締結した。

MOUの調印に先立ち、2日間にわたって開催された土壤研究所本館でのセミナーには、農業環境技術研究所から陽理事長、林地球環境部長、岡生物環境安全部長および渡辺会計課長補佐が、土壤研究所からは周所長、楊副所長、林副所長他8名が出席した。本セミナーでは、1)陽理事長と周所長による両研究所の概要と研究活動の紹介、2)共同研究の意義とMOUについての検討、さらに、3)両研究所が実施する主要研究課題の成果報告と論議がなされた。

陽理事長からの提案「共同研究課題の位置づけと協力分野」を基にした意見交換の結果、1)大気圏から生物圏に至る物質循環と環境変動の解明、2)土壤環境の保全、3)農業生態系における生物環境安全性の評価の3つの分野で共同研究を実施することを決定した。これに続いて、両研究所の主要な研究課題から合計12の話題を相互に提供

して理解を深め、共同研究課題に向けた論議が進められた。なお研究課題については、今後さらに両研究所間で検討を重ね、その内容を具体化することで合意した。

7月4日の午後、セミナーの終了とともにMOUの調印式へ移行した。セミナー参加者全員が見守る中、両国の国旗と花束で彩られた卓上で、陽理事長と周所長が互いにMOU本文を交換しながら署名して調印式を終え、同日付けで両研究所の間にMOUが発効することになった。このMOU締結は、農業環境技術研究所が、昨年10月の韓国農村振興庁農業科学技術院とのMOU締結に加えて実施したもので、今後、中国および韓国との国際共同研究として、東アジアモンスーン地域に共通した農業環境の研究課題に協力して取り組むことになる。

中国科学院土壤科学研究所とは、その後も相互に共同研究課題の検討を継続している。さらに、平成14年度末には両研究所および韓国の研究所などとともに、これらの課題について国際シンポジウムを開催する予定である。



MOUの調印式



共同セミナーの開催